

第3回三鷹市における平和施策の推進に関する条例の改正に向けた検討委員会
議事録（要旨）

日時	令和7（2025）年11月11日（火）午後4時～5時
場所	三鷹市役所本庁舎3階 第二委員会室
出席委員	山本 正和、島田 肇、仁礼 均、後藤 ひろみ、秋山 慎一、中舘 文子、石坂 和也（委員名簿順、敬称略）
欠席委員	なし
市側出席者	企画部長 石坂 和也（再掲） 教育委員会教育部指導課教育施策担当課長 齋藤 将之 企画経営課 西澤 俊、貝原 岳、山際 陽子、石川 正夫、五十嵐 由梨
会議の公開・非公開	公開
傍聴人数	1人

1 開会

2 「三鷹市における平和施策の推進に関する条例」の改正に向けた基本的な考え方について

資料1及び資料2に基づき事務局より説明した。

3 意見交換

[A委員]

・市民からの意見で、積極的に取り入れられそうなものはあったか。また、今後市民から意見を聞く機会はあるか。

→ [事務局]これまでの検討委員会でのご意見には参考になるものが多くあった。市民からの意見は、既に委員の皆様からのご意見により基本的な考え方に入り込んでいる内容もあったことから、直接反映した意見は多くはなかった。今後、条例改正に向けた骨子をまとめた後に実施するパブリックコメントにおいて、改めて市民から意見を収集する。また、今後の平和事業の中でも市民からの意見は収集できると考えている。先日実施した国際基督教大学構内の戦跡を巡る「戦跡フィールドワーク講座」では、定員30名に対し130名を超す応募があり、関心の高さがうかがえた。来年度以降も、これらの平和事業において、意見を伺いたいと考えている。

[事務局]

・平和教育に関して、戦争については経験がなく身近なものでないため、自分ごととして捉えるのは難しい。自分たちが攻撃的になってしまふときや戦争が始まるときはどんなときなのかを想像することで、平和の大切さを自分ごととして考えられるようになるのではないか。今後11月を「平和教育月間」とする中で、道徳教育を中心に平和教育の推進が図れるよう教育委員会から各学校への啓発を検討している。

[B委員]

・第七小学校で戦争体験談を話す機会があった。子どもたちがどう受け止めたかは分からぬが、戦争は良くないということを継承するために、子どもたちに話せる機会があつて良かった。

→[事務局]戦争体験談については体験者の話を直接聞くことが大切だと認識している。市の事業では、平和祈念式典で戦争体験者の話を聞くことができる。

[C委員]

・私は戦争を直接経験した世代ではないため、戦争についての話は人から聞いた話になるが、学生に「戦争はなぜ起るのか」と質問されて答えに窮したことがあった。その時は「宗教の違い」や「経済や資源の問題」と関連させて答えた。

→ [事務局]親が戦争を経験した世代は、親から聞いた経験から情報発信することができる。

[A委員]

・争いは相手の立場を考えないことから起こると考える。人権の取組は大切だと思う。人権と平和は結びついている。

・戦時中に三鷹で何が起きたのかを知る機会を、学校教育の中で作ってほしい。フィールドワーク講座が相応しいと考える。ニュース等で海外の戦争が取り上げられているが、身近な地域の戦時中の出来事を知ることが戦争の理解につながり、自分ごととして考えることにつながる。

→[事務局]教育現場ではフィールドワークで三鷹の戦跡を案内・説明できる指導者が限られており、大人数の学生に対しての実施は難しく、ある程度の少人数でないと機能しにくい。

→ [A委員] 1クラスずつでフィールドワーク講座を行ってほしい。

→ [事務局] 1クラスずつの実施には、1学級の担任が1人であることや時間割上の制約が大きいことから難しさがある。学年単位での実施が現実的である。また、地域ごとの平和学習も併せて行っている。羽沢小の近くの椎の実子供の家（保育園）には高射砲陣地がある。また、一小の近くには仙川平和公園があり、平和に関するマップ作成等を行っている。学校教育は9科目を中心だが、教科等横断的視点で平和学習についても考えていきたい。

[D委員]

・平和カレンダーの取組を継続していきたい。現在本庁舎市民ホールに掲示されている中学生の薬物乱用防止ポスターも参考になる。私が所属する団体でも薬物についての講習会をしており、薬物禁止の取組は平和にも繋がっていくと考えている。

→[事務局]平和カレンダー事業は小学生が思いを込めて絵を描く貴重な事業である。これからも三鷹市世界連邦運動協会と協力して取り組んでいきたい。

[E委員]

・平和事業拡充の方向性や平和条例改正の進展に関心がある。三鷹市は長年平和事業に取り組んでいて素晴らしいと思う。

→[事務局]平和条例を改正することが目的ではなく、何をするかが重要だという委員の考え方と同じ認識だ。人権施策については、平和事業との関係性を捉えて取り組んでいく。

[F委員]

・平和事業は、できるところから始めれば良いと思う。本検討委員会で、教育委員会と連携できしたことや中学生長崎市平和交流派遣事業も良かった。人権も平和も、子どもが何をしたいかを考える時に若いうちから取り組んでいくことが一番大切だと思う。

→[事務局]人権施策は相互理解について学ぶことでもある。人権を基礎にして平和学習につなげていきたい。

[事務局]

- ・本日の検討委員会でいただいた貴重なご意見を踏まえ、「三鷹市における平和施策の推進に関する条例」の改正に向けた基本的な考え方を最終的に取りまとめ、確定とする。
- ・全3回にわたる検討委員会において、委員各位から多岐にわたる貴重なご意見を賜り、また、活発な議論をいただいたことに、事務局一同、心より感謝する。

4 閉会